

別記様式

議 事 録

会議の名称	令和3年度第1回岩倉市総合教育会議
開催日時	令和3年7月26日(月)午後1時から午後2時15分まで
開催場所	岩倉市役所 7階 第1委員会室
出席者	<p>【構成員】</p> <p>岩倉市長 久保田 桂朗 教育長 野木森 広 教育長職務代理者 江口 雅啓 教育委員 丹羽 礼子 教育委員 松本 恵 教育委員 押谷 誠 教育委員 岩井 義尚</p> <p>【事務局】</p> <p>教育こども未来部長 長谷川 忍 学校教育課長 近藤 玲子 学校教育課管理指導主事 渡辺 まゆみ 学校教育課主幹 井手上 豊彦(学校教育グループ長) 生涯学習課長 佐野 隆 子育て支援課長 西井上 剛 総務部長 中村 定秋 秘書企画課長 秋田 伸裕 秘書企画課主幹兼 小出 健二(企画政策グループ長) 市制50周年推進担当 秘書企画課主任 伊藤 絵美子</p>
会議の議題	<p>(1) 岩倉市教育大綱の策定について</p> <p>(2) 岩倉市教育振興基本計画の見直しについて</p>
議事録の作成方法	<input checked="" type="checkbox"/> 要点筆記 <input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> その他
記載内容の確認方法	<input checked="" type="checkbox"/> 会議の長の確認を得ている <input type="checkbox"/> 出席した委員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他()
会議に提出された資料の名称	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次第 ・ 資料1：岩倉市総合教育会議構成員名簿 ・ 資料2：岩倉市総合教育会議運営要綱 ・ 資料3：岩倉市教育大綱 ・ 資料4：岩倉市教育振興基本計画中間見直しに係る基本方針 ・ 参考資料：第5次岩倉市総合計画概要版
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開

傍聴者数	0人
その他の事項	議事録作成者 秘書企画課 伊藤 絵美子

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）	
1	開会
2	市長あいさつ
3	協議事項
	(1) 岩倉市教育大綱の策定について企画政策グループ長から説明
	(2) 岩倉市教育振興基本計画の見直しについて企画政策グループ長から説明
江口委員	岩倉市教育振興基本計画中間見直しに係る基本方針の説明の際に、施策・事業の進捗状況の評価と今後の施策課題の抽出とありましたが、現状、目標は達成されていますか。
学校教育課長	達成されたもの、達成されていないもの、新型コロナウイルス感染症の影響で達成が難しかったものがあります。
江口委員	達成度を数値で表すのは難しいと思いますが、見直す際にはどのようにしますか。
学校教育課長	数値目標については、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮する必要があると考えます。感染症が発生した場合、学校教育について、また、学校教育以外の活動についても、持続可能な目標を掲げることが計画の中に記載すべきだと考えています。
押谷委員	施策・事業の進捗状況の評価について、目標を達成できたかどうかをどのように評価するのか不明です。具体的な評価基準があれば次につながると思います。
学校教育課長	数値目標はあります。また、推進したい事業が実現できていれば、目標達成となります。例えば、ICT教育の推進がありますが、状況が大きく変化し進んでいる事業ですので、目標達成をしている事業です。また、教育相談の充実についても一定程度の充実が図られていると評価しています。
押谷委員	判定はできるのですか。
学校教育課長	数値だけにとらわれず、評価できます。
市長	岩倉市教育振興基本計画の64ページに数値目標の記載があります。一般的に行政活動は、数値で評価することが難しい場合が多くありますが、5年刻みの目標設定があります。
学校教育課長	令和2年度の講座や研修会は、新型コロナウイルス感染症の影響のため参加人数が少ないものが多く、評価は難しいですが、今後は、適正な参加人数を検討していきたいです。

松本委員：多文化共生について、岩倉市教育振興基本計画では、日本語教育が必要な外国人が多いという問題提起がされていますが、教育大綱では述べられていません。

企画政策グループ長：総合計画の中で、多文化共生についての施策は、基本目標5に位置づけています。第5次岩倉市総合計画の163ページに平和・共生という施策があり、その中に多文化共生・国際交流の推進があります。大きな章で考えると別目標ですが、平和・共生の共生は基本理念の共生社会につながりますので、全体的な施策に関連していると考えています。

教育長：松本委員の意見は、教育大綱に多文化共生という言葉を入れるべきだということですか。

松本委員：外国人に対する教育にももっと力を入れていくという文言があるとよいと思いましたが、広い意味で含まれるということですね。

企画政策グループ長：そうです。

学校教育課長：第5次岩倉市総合計画の90ページ、施策の内容(1)の個別施策②には、日本語教育が必要な児童生徒の指導体制について記載があります。また、岩倉市教育振興基本計画の32ページ、13番には保護者等と連携した外国にルーツをもつ児童生徒への指導体制の充実について、記載があります。次期計画についても引き続き取り組んでいきたい内容です。

松本委員：LGBTについて、文言があればよいと思います。

学校教育課長：計画の中でも、念頭に入れて取り組んでまいります。

押谷委員：質の高い教育については、どこを見ればいいですか。

企画政策グループ長：SDGsの目標4の質の高い教育について、総合計画では基本施策の学校教育の部分が該当箇所です。

押谷委員：個人的な意見ですが、以前と比べると子どもの学力が下がっているように思われます。学校教育は最小限にとどめ、それ以上は塾で補填させるという方針なのでしょうか。全国学力テストの結果も、質の高い教育に入るのでしょうか。

教育長：全国学力学習状況調査の結果については、大きな変動はありません。しかし、全国学力学習状況調査では、主に「知識」に関する問題のみの調査はやらなくなりました。発想力や表現力を調べる方法は確立されていないと思います。

押谷委員：最近、コミュニケーションが苦手な児童生徒が多いように思われます。ディスカッションの場は、学校に必要だと思います。

岩井委員：直接、人と話す機会が減ったことも、自分を表現するのが苦手な学生が多くなった要因だと思います。また、あいさつもしなくなりました。

押谷委員：あいさつ運動は、すばらしいと思います。何か問題が起こった際に、声をあげられない子がいますが、まずはあいさつから始めると、コミュニケーションを取ることを学ぶことができると思います。

丹羽委員：まちづくりの基本理念、マルチパートナーシップによる誰もが居場所のある共生社会をめざすとありますが、高齢者が生き生きと充実した生活ができるよう居場所を作るのは高齢者自身でもありますが、行政がそういった居場所を高齢者へ提供することも大切です。

市長：高齢者の方が今まで培ってきた技術や経験を活かし、地域に貢献できるよう、高齢者が参加できるメニューを用意していきたいと思っています。また、今でも高齢者の方には、交通安全や地域防災等を担っていただいています。

教育長：最近では、老人ホームと保育園や幼稚園を隣接させる例があります。互いに交流することで、生きがいになると聞いており、大変よいことだと思います。岩倉市教育委員会の1つの課題として、コミュニティ・スクールをどうするかということがあります。元気な高齢者が地域の子どもと関わることで生きがいになり、さらに活躍の場または趣味が広がるというところにニーズがあると思います。

岩井委員：家では使えないような道具等を集めコミュニティを作れば、子どもだけではなく、大人も集まってくると思います。

市長：共通のものがあることで、地域の特色を活かして発展していけるとと思います。

押谷委員：ここ10年くらいは、老老介護の外来の患者さんが多いような気がします。軽症な認知が改善する場合は、自分の存在意義を確認できたとき、仕事を与えられたとき、責任を担わせたときですので、子どもと高齢者が関わりをもつことはよいことだと思います。また、そういったコミュニティに参加するにも、まずは健康でいることが大切ですので、高齢者のADLを維持するような講座を行政がたくさん用意できればよいと思います。

江口委員：岩倉市は昨年、岩倉市健幸づくり条例を制定し、健幸づくりに取り組んでいます。また、条例を制定していない他市から見ると、岩倉市はやれることはやっているといます。高齢者が集まる居場所があれば、人との繋がりができ認知機能の低下を抑制できるのでよいと思います。

市長：健康年齢を伸ばすため、自分の生きがいや居場所を見つけるため、いろいろなメニューを考えていきたいです。今までの意見を参考にできることから進めていきたいと思っています。

(3) その他

特になし

4 その他

企画政策グループ長：次回の会議日程ですが、参考資料4の岩倉市教育振興基本計画の見直しスケジュールに合わせ、2月頃に開催したいと思っています。その間に、会議開催の必要があれば、適宜開催させていただきます。